

- 地震災害から文化遺産と地域をまもる対策のあり方（骨子） -

第1章 策定の背景等

1. 文化遺産をまもる必要性
2. 近い将来の大規模地震への対応
3. 文化遺産の所有者・管理者、地域住民、行政の連携の重要性
4. 文化遺産と地域をあわせてまもる意義

第2章 地震災害から文化遺産と地域をまもる基本的な考え方

1. 本あり方において対象とする災害・文化遺産・地域

- (1) 対象とする災害
- (2) 対象とする文化遺産
- (3) 対象とする地域

2. 主体毎の取り組みのあり方

- (1) 文化遺産の所有者・管理者の取り組み
- (2) 地域住民の取り組み
- (3) 行政の取り組み
 - ・防災意識の普及・啓発
 - ・文化遺産の所有者・管理者への防災指導
 - ・自主防災組織の活動の支援・指導
 - ・地域防災計画等への反映
 - ・行政間の連携

3. 文化遺産の所有者・管理者、地域住民、行政の連携について

- (1) 防災まちづくりとしての地域での取り組み
- (2) 自主防災組織の活性化
- (3) 被災時の行動方針の策定
- (4) 各主体が連携した訓練による防災力の向上
- (5) NPO, NGO等との連携の強化

第5章 実現に向けた課題等について

文化遺産の所有者・管理者、
地域住民、行政の連携の強化
取り組みへの市民参加の活用
消防水利設備の耐震化
都市全体の防災力の向上

地震災害以外の災害に対する対応
未指定の文化遺産の把握等
文化遺産の防災に関する
研究・技術開発の推進
文化遺産に関する専門家の育成等

第3章 地震災害から文化遺産と地域をまもる計画の考え方

1. 地域防災計画への位置づけ

2. 計画策定の方針

- (1) 文化遺産の所有者・管理者、地域住民、行政の役割分担
- (2) 文化遺産の所有者・管理者、地域住民、行政の連携
- (3) 短期・中長期的対策の両面からの検討
- (4) 対策内容の具体化

3. 計画策定の方法、留意点

- (1) 対象とする文化遺産と地域の決定
- (2) 地域特性の把握
- (3) ソフト・ハード対策の検討
- (4) 計画内容の決定
- (5) 事業の具体化に向けた検討

4. 計画実現に向けた体制の構築

第4章 具体的な対策手法

1. ハード対策

- (1) 文化遺産を所有者・管理者がまもる手法
 - ・建造物の倒壊防止
 - ・美術工芸品等の転倒・転落防止
 - ・各種消火設備の整備
- (2) 文化遺産と地域を一体としてまもる手法
 - ・延焼を減ずるための周辺の街路樹整備、公園・空地整備
 - ・消防や地域による消火活動のための施設の整備
 - ・建築物の耐震化・不燃化
- (3) 地域ぐるみの取り組みとして文化遺産と地域をまもる手法
 - ・文化遺産の保管場所の整備
 - ・住民・観光客等の避難路、避難場所の整備

2. ソフト対策

- (1) 文化遺産を所有者・管理者がまもる手法
 - ・文化遺産の消火・搬出・保全
 - ・観光客の避難・誘導等
- (2) 地域ぐるみの取り組みとして文化遺産と地域をまもる手法
 - ・消防や地域住民等による消火活動・文化遺産の搬出・保全活動の訓練
 - ・各種活動のマニュアル整備
 - ・地域の防災力向上の取り組み